

	図書館の状態	理由	結果
レベル0	常時、施錠されている。	・学校管理者が図書館教育の重要性を理解していない。 ・図書館教育を担当する人材がいない。 ・学校が荒れており、開館するとコントロールできない生徒の溜まり場になる。	・児童生徒は読書を楽しむ、図書資料を使って学習するに置かれていない。 ・教育は知識注入型、暗記重視テストに終始する。 ・図書は利用されないまま廃棄され、図書購入費(税金)や無駄になる→図書費は消耗品費等に流用される。
レベル1	週に1, 2回昼放課、放課後に開館され、生徒は本を借りて読むことができる。	・学校管理者が図書館教育の重要性を理解していない。 ・図書館教育担当者は担任と兼任、図書館教育に割く時間が少ない。又は知識と技能がない。 ・学校が荒れており、生徒図書委員だけで開館するとコントロールできない生徒の溜まり場になる。	・図書館は、少数の読書好きのための貸本屋的存在。 ・図書利用率は低い→税金の無駄遣いと事務官に認識される→他へ流用。
レベル2	昼放課、放課後に毎日開館される。テスト前には閉館されることが多い。 授業に使われることは少ない。	・図書館は学習に利用するところという意識が学校管理者、図書館担当者ともない。 ・図書館担当者は自分の出来る範囲で誠実に仕事をこなしている。 生徒図書委員会指導、読み物指導、掲示活動など。 ・教務部が図書館を使った授業について知識と技能がないので、カリキュラムに図書館を利用する授業を組み入れない。	・図書館利用者は多いが、多くはレジャー読書に終始する。 ・蔵書は文学に偏りがち。 ・図書係以外の教員は図書室に足を向けない。

レベル3	・常時開館しており、司書や、図書ボランティアなど大人がいる。 ・一部の教科、領域（特別活動、行事、総合学習等）が図書館を使って行われる。 ・読書ノート等の読書指導のための教材が整備されている。 ・利用指導の時間が確保されている。	・学校運営の中心部に図書館があり、教員の中核とする意識が管理者にある。 ・学校司書が配置され、図書館運営に人手と時間が掛けられている。 ・学校司書が授業を支援する態勢が出来ている。 ・司書教諭が各教科、領域の図書館を利用する授業や活動をデザインする態勢ができている。	・図書館は、読書センター、学習センターとして機能している。 ・すべての児童生徒が図書館を利用して学習するスキルを身につける。 ・授業に使える蔵書構成になっている。
レベル4	・全教科が図書館を使って授業を行う。 ・図書館を使う授業の年間カリキュラムができており、教科が使う時間割り当てができている。 ・図書以外のメディアが整備されている。 ・授業のための教員用資料が揃っており、教員が教材研究のために利用する	・司書教諭、学校司書は常に研修している。 ・司書教諭は、情報教育の要と位置づけられ、一般教員を指導することができる。	・児童・生徒は、十分なメディアリテラシー教育を受けることができる。 ・児童・生徒の自ら学ぶ姿勢が育ち、学力があがる。 ・図書は十分に活用され、税金の無駄遣いの批判はなくなる。